

# KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



**中里碧 くん**  
(令和4年2月生まれ・鴻巣)  
リム(犬)と仲良くおやつタイム♡  
(父：優希、母：莉那)



**染谷春翔 くん**  
(令和4年1月生まれ・旭町)  
かけがえのない日々をありがとう。大好きだよ♡  
(父：亮佑、母：直美)



**荒木心芽 くん**  
(令和2年5月生まれ・小堤)  
いつもかわいい笑顔をありがとう♡幸せいっぱいです♡  
(父：貴秀、母：佳歩)



**山中琴葉 ちゃん**  
(令和3年6月生まれ・水海)  
たくさん食べて、いっぱい遊んで、明るく元気に育ってね  
(父：健史、母：利恵)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0～3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールの場合は件名を「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、city.pr@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎シティプロモーション課TEL92-3111)へ申し込みください！



わたしの夢

## 信念をもった 優しい先生になりたい

青木桃華さん 三和北中学校3年生

私の将来の夢は、教師になることです。そう思った理由は、教師という職業はユーモアややさしさなどたくさんの個性を生かしていて素敵な職業だと思ったことと、悩んでいるときに先生に話を聞いてもらって心が軽くなったことがあったからです。

私は人と話すことが得意ではありませんが、夢の実現に向けて、挨拶を忘れず、人との会話を大切にしようと思っております。

憧れている先生方のように、自分の信念をもった優しい先生になりたいです。



キラリ  
古河ビト

子どもたちの笑顔が宝物

紙芝居作家・脚本家

荒木文子さん(上辺見)

幼い頃に表現する楽しみを覚え、人形劇や紙芝居作家などさまざまな活動を続けている荒木さん。東京都豊島区で36年間続く人形劇まつりの主催者の一人として活躍するほか、全国紙芝居まつりで実演部門の右手賞を受賞したこともある荒木さんに、これからの目標などを伺いました。

小学生の頃、先生の勧めで人形劇クラブに入会した荒木さん。発表会で表現することの楽しさを実感したことが、現在の活動の原点となりました。

大学に進学した荒木さんは、小学生の頃を思い出して人形劇サークルに入会。全国各地の幼稚園や小学校で人形劇を披露してきました。大学卒業後は一般企業に就職しますが、仕事の傍ら、目白にある「子どもの文化研究所」でさまざまな講座を受講して研鑽を積むなど、2足のわらじを履くような生活を送っていました。

30歳の頃、脚本家になるという自身の夢を追いかけることを決意して会社を退職し、日ごろから足を運んでいた「子どもの文化研究所」で、アルバイトをしながら勉強を始めます。それから7年の時を経て童心社の作家塾に入門することができ、40代で初脚本作品の「わにがめんどりをたべないわけ」を出版しました。

紙芝居や人形劇など、アナログな表現手法で子どもたちとの生のやりとりでこだわる荒木さんは「子どもたちの笑顔は宝物」だと話します。

新型コロナウイルスによる自粛生活で失われつつある、大きな声で笑うことの大切さを一人でも多くの子どもたちに伝えていきたいと語る瞳は、やる気に満ちあふれていました。

### 語りと紙芝居の会 IN 古河

日時 3月19日(日)10時30分  
場所 古河文学館  
定員 50人  
費用 大人1,000円、中学生以下500円(5歳未満で席が不要の場合は無料)  
申込・問 古河文学館TEL21-1129



▲荒木さんが携わった紙芝居など



▲パネルシアターを披露する荒木さん